

外信	4
1.29	

理論物理学国際会議に関する外部との往復通信一束
(1月29日現在)

A 着 信

1. Mottからユネスコ・ロックフェラー補助金配分に関する意見と英国関係参加に対するRoyal Societyの旅費補助決定通知(Ch.51)
(配布資料[120]に対する回答)

Mott, Peierls, Coulson の3名に対し100ポンドずつの割当が決定になった。

又ユネスコ・ロックフェラー補助金に関する御相談(配布資料[120]については、提案された2案中A案(一応1000ドルずつ各参加者に配分して、それでどうしても不足の人に更に配分することにし、予備金を相当保留する案)の方がよさそうに見える。

2. Slaterから講演題目通知(Ch.52)

これは[招返14]の送付([外信12]Bの2参照)に対する受領挨拶を兼ねたもの。

Slaterの講演題目は、

1. Relation between configuration interaction and ferromagnetism.
 2. Summary of work on molecular theory.
3. Peierlsから旅費の自己調達見込額通知(Ch.53)

Royal Societyから100ポンド補助されること。British Council から別に補助があるかも知れない。決つたら改めて知らせる。

4. de Boerから旅費の自己調達について通知(Ch.53)

いろいろ奔走したがどうにもならない旨通知。

5. Perrinから旅費の自己調達について通知(Ch.53)

半額は出せる由。

6. Seitzから講演題目通知 (Ch.56)

1. Theory of color centers in the Alkali Halides.
2. Theory of the Kirkendall effect.

7. Anderson から招請承諾通知 (Ch.57)

東大の客員講師として渡日の予定であるが、万一これが取消めになっても国際会議にだけは参加することを自分の勤務先で了承している。

8. Hirschfelder (Univ. of Wisconsin) から参加申込 (Ch.48)

9月13日にサンフランシスコで講演したあと、10、11月にはイタリアとイギリスで講演することになっている。夫人と同伴したい。

(追 加)

外信 2 京信の部に下記が脱落。

4. Fröhlichから講演題目通知 (Ch.18)

1. Superconductivity.
2. Electrons in dielectrics.

記 事 付 録	
在 京	7
1. 2 9	

理論物理学国際会議ユネスコ-ロックフェラー
 補助金第1回配分

氏 名	国 名	所要旅費 (ドル)	配分安 (ドル) ⁽¹⁾	決 定 (ドル) ^{(1)*}
1. Bohr	デンマーク	1381	1380 ⁽¹⁾	1380 ^{(1)*}
2. Heisenberg	ドイツ	1300	1300 ⁽¹⁾	1300 ^{(1)*}
3. Mott	イギリス	1310	1000 ⁽²⁾	1030 ^{(2)*}
4. Peierls	イギリス	"	1000 ⁽²⁾	1030 ^{(2)*}
5. Coulson	イギリス	"	1000 ⁽²⁾	1030 ^{(2)*}
6. Bhabha	インド	792	400 ⁽²⁾	400
7. de Boer	オランダ	1300	1300 ⁽³⁾	1300
8. Prigogine	ベルギー	1300	1100 ⁽³⁾	1100
9. Heitler	スイス	1290	1000 ⁽⁴⁾	1000 ^{(4)*}
10. Neel	フランス	1300	1000 ⁽⁴⁾	1000 ^{(4)*}
11. Ferretti	イタリア	1240	1000 ⁽⁵⁾	1000 ^{(5)*}
12. Perrin	フランス	1300	650 ⁽⁶⁾	650
13. Moller	デンマーク	1380	700 ⁽⁶⁾	700
14. Wheeler	アメリカ	2021	700 ⁽⁷⁾	— ^{(7)*}
計			13,630	12,920
予 備 金			3,370	4,080
総 計			17,000	17,000

記事付録
在京 7

15. Gorter⁽⁸⁾ オランダ 1300^{(8)*}
16. Fröhlich⁽⁹⁾ イギリス 1310^{(9)*}
17. Hylleraas⁽¹⁰⁾ ノルウェー 1408^{(10)*}

註(1) ボア・ハイゼンベルグは兩名の病情と敬意表明の2点から全額支出。

(1)* 「全額補助を割り当てる用意はあるが、なるべく多くの人に補助を出したいから、出来れば幾分でも自己調達してもらえないか」という趣旨の手紙を出す。

(2) モット・パイアス・クールソンについてはモットの手紙により、1000ドルで十分と指示された。
ババはインドからの旅費の半額出せる旨表明あり。

(2)* Royal Societyの補助額が100ポンド(280ドル)であるのにかんがみ、所要額との差の正額を出した。

(3) デ・ブア・アリゴゼンは八方奔走の結果、後者は200ドル以上調達の見込立たず、前者は殆んど自己調達の見込がないことがわかった旨通知あり。

(4) ハイトラー・ネールは一応自己調達見込ない旨表明あり、一応1000ドル割当。

(4)* (5)* 「これだけ出すから、残額は一応自己調達について折衝して見てもらえないか」という趣旨の手紙を出す。

(5) フェレットからは何の意志表示もないので一応1000ドル割当。

(6) ペラン・メラーは当初往復旅費補助なしの招請であつたが当人から奔走の結果この額だけは補助がもらえないと参加不能の旨通知あり。

(7) フィーラーはフルーリーからの来信で往復旅費の半額は或は自己調達出来ぬかも知れない由。

(7)* Slaterに対し、米国側から金が出ないものか打診の手紙を出す。

(8) ゴーターは旅費調達難を理由として参加辞退通知あり。

(8)* いくら補助が出たら采られるか照会する。

(9) フレーリッヒは往復旅費補助なしの組。

旅費に関して何の申越もないが、ペラン・メラーとの振合から考慮するか。

(9)* (10)* 以上の照会の回答があるまで一応保留。

(10) ヒレロースはノルウェー国内委員長としてノルウェーからの参加者に補助を希望。